

JCOMMマネジメント賞受賞記念講演
「大人の社会見学」の7年
—高校・大学・自治体連携による
地域公共交通利用促進のあゆみ—

2021年08月20日

第16回日本モビリティ・マネジメント会議 於:熊本城ホール

大分県立三重総合高校メディア科学科

豊後大野市役所(まちづくり推進課)

大分大学経済学部経営システム学科 大井尚司(交通論)研究室

日本工営株式会社(福岡支店・大分営業所)



NIPPON KOEI



「大人の社会見学」とは

- ▶ 2014年開始、2019年で6回目(2013は予備調査、2020・21は休止)
- ▶ 主体: 大分大学(経済学部経営システム学科大井研究室3年)、豊後大野市、大分県立三重総合高校(メディア科学科3年「課題研究」での選択者;2015以降)、日本工営(福岡支店)
- ▶ 目的: **地域公共交通(コミバス・乗合タクシー・路線バス)の利用促進における「きっかけづくり」**
- ▶ 内容: 公共交通の利用体験(おでかけ)

お出かけ先の「目的」(昼食、買物支援、レク等)

集落調査(事前、事後)、参加者ヒアリング(自宅訪問)

- ▶ **高大連携**に位置付け: 高校授業に大学生参加

教員等の大学ゼミ参加

R1三重総合高校・大分大学・豊後大野市の3者協働による社会実験イベント

大人の社会見学 第6弾

参加者募集

わくわく高校1日体験入学
～タイムスリップ!
あの青春をもう一度～

食欲の秋は
スイーツが食べよう～!
家庭科室はどきどき
ランチが食べよう～
前日に作業したけん!

明日は
学校に
行って
みたい

★ 実施日時: 令和元年11月19日(火) 9:30～13:30 ※イベント後、調査ご協力
★ 集合場所: 9:30市役所バス停(※山田線沿線の方は9:55～10:23各自宅最寄りバス停)
★ 実施内容: レクリエーション、一緒に昼食など

プログラム (予定) ※内容は変更になる場合があります。

1 限目 --- 社会の授業: コミュニティバス体験試乗 (市役所から三重総合高校まで移動)

2 限目 --- オリエンテーション: 学校紹介

3 限目 --- 体育の授業: わくわく整列・ボール運び

4 限目 --- 給食の時間: みんなで一緒に楽しい昼食 (協力予定: 豊後大野市野菜ソムリエコミュニティ)
※昼食後、ご希望の方は、買い物に高校生・大学生が付き添います。

お問い合わせ
豊後大野市役所 まちづくり推進課 ☎0974-22-1001 (内線 2442)

実施に至った経緯

▶ 地域公共交通連携計画・網形成計画における「利用促進」の課題

交通会議・協議会、コミバス運営協議会による意見交換や情報共有

大分県策定の計画(網計画・再編計画)と連携しての公共交通機関の確保維持改善

→ 行政主導の利用促進策: 地域ニーズ把握、公共交通利用の誘引付けに課題

(要望陳情になる地域住民の声、本音が拾えない、職員も時間がない)

▶ 大学・高校における地域連携の課題

フィールドワーク→一方的な視察+自己満足アウトプットで終わりがち

高校は大学進学者、大学は高校からの進学者の開拓要→高大接続教育の必要性:成果が必要

👉 「地域の課題を、地域の人材、それも若者と自治体の協働で検討、分析しては？」

若者の強みを活かすための高校・大学の生徒+大学の知の貢献+コンサル・行政の連携

大人の社会見学プロジェクトの経緯

4

4期(豊田JCOMMで発表)

高校生参加3期目
路線バス+コミバスで実験
旧大野町で実施(新設区間の日常利用促進)

5期(金沢JCOMMで発表)

高校生参加4期目
コミバスで実験
旧緒方町で実施 お出かけ促進

3期(福岡JCOMMで発表)

高校生参加2期目
あいのりタクシー運行地域で実験
旧清川村で実施(利用低迷の啓発)

2期(松山JCOMMで発表)

ここから高校生が参加
旧朝地町で実施(新設路線啓発)

1期(東京JCOMMで発表)

旧千歳村・旧朝地町で社会実験
大学生+自治体で実施

0期(帯広JCOMMで発表)

地域特性把握、公共交通利用実態の把握

R3JCOMM賞授賞講演

6期(広島JCOMMで発表)

高校生参加5期目
コミバスで実験
旧三重町で実施
利用減少の要因発掘と利用啓発

7年の実施経緯(概要)

※すべてJCOMMで発表しています

- ▶ 0期(2013→帯広2014)
- ▶ 1期(2014→東京2015)
- ▶ 2期(2015→松山2016)
- ▶ 3期(2016→福岡2017)
- ▶ 4期(2017→豊田2018)
- ▶ 5期(2018→金沢2019)
- ▶ 6期(2019→広島2020)

※2020・21年度はコロナの影響で実施見送り(高校生の利用促進にシフト)

実施の風景

6

**利用者目線で
バス体験
(案内・土地の理解)**



**高校生主導の企画(食事、レク)
(高齢者カフェと連携)**



高校生を体験



**高校生発案の弁当で
みんなでお昼**



**高校生企画のレクリエーション
上位者に賞品も**

**自宅まで戻り、高校生と大学生
のコンビで聞き取り調査
(生活実態、感想、意識などの把握)**



**高校生に対して事前準備＝地域理解の醸成
(大学生との合同授業、体験乗車、意識把握)**



一例:ある年の様子(JCOMMでも既発表)



社会実験の様子

みんなでお弁当

レクリエーションの様子

社会実験

大井研究室

バス

おはき

ふんわり食パン

R3JCOMM賞授賞講演

2021/08/20

実施に当たって工夫した・苦勞した点

①豊後大野市(行政)の立場から

▶工夫した点

小さな成功の積み重ね

- ・とりあえずやってみる！ (例)大学との連携 → 大学+高校との連携、
(0期、1期) (2期以降)

▶苦勞した点

葛藤(保護者目線・仕事目線)

- ・段取りの違い、目標の微妙な相違、公共交通に対する認識の差

実施に当たって工夫した・苦勞した点

②高校の立場から

▶ 工夫した点

- ① 高校生が達成感を持てるようにする → 自由な発想に委ねる&コーディネート
- ② 地域の特色や観光資源について学ぶことによる相乗効果
生徒の声

「これまで自分の地元に興味がなく、何もないと思っていました。

しかし、1年間の研究を通して、街の魅力を知り、誇りを持てるようになりました。」

▶ 苦勞した点

- ① 高校の授業で実施するため、大学生と一緒に活動できる「時間」と「空間」が限定
- ② 高校3年生が取り組むため、毎年生徒が入れ替わり事業が単年度で終わる

実施に当たって工夫した・苦勞した点

③コンサルの立場から

▶ 「工夫した点」

・千歳地域での利用の伸び

直接的要因:商業機能の地域での撤退。コミバスの三重中心部までの延伸

加えて、**地域のリーダー(世話役)的役割の存在**(その方が周辺の免許未保有の方を自分の車で送迎しながら買い物等実施していた)

→高齢化で自らの**運転への不安、送迎することの責任への不安**。送迎してもらう側も**その方への負担感**の増大について懸念していたと推測 →**コミバスを定期的・日常的に利用(確実な利用増加効果)**

※**高齢者と若者(学生)の直接的な交流**の実現(高齢者の生き生きした姿、参加者の笑顔)

▶ 「苦勞した点」

・市・大学・高校という3者の違う目的の整合(コンサルのコーディネーターとしての役割)

・事業を継続中でのマンネリ化への対応(学生は毎年変わる。こちらは変わらない)

→地域を変える。外出の目的を変える。地元のNPOとの連携を図る等の工夫は行っただが、限界

→ターゲットを高齢者から高校生へ変更して利用促進事業を継続

実施に当たって工夫した・苦勞した点

④大学の立場から

▶ 工夫した点

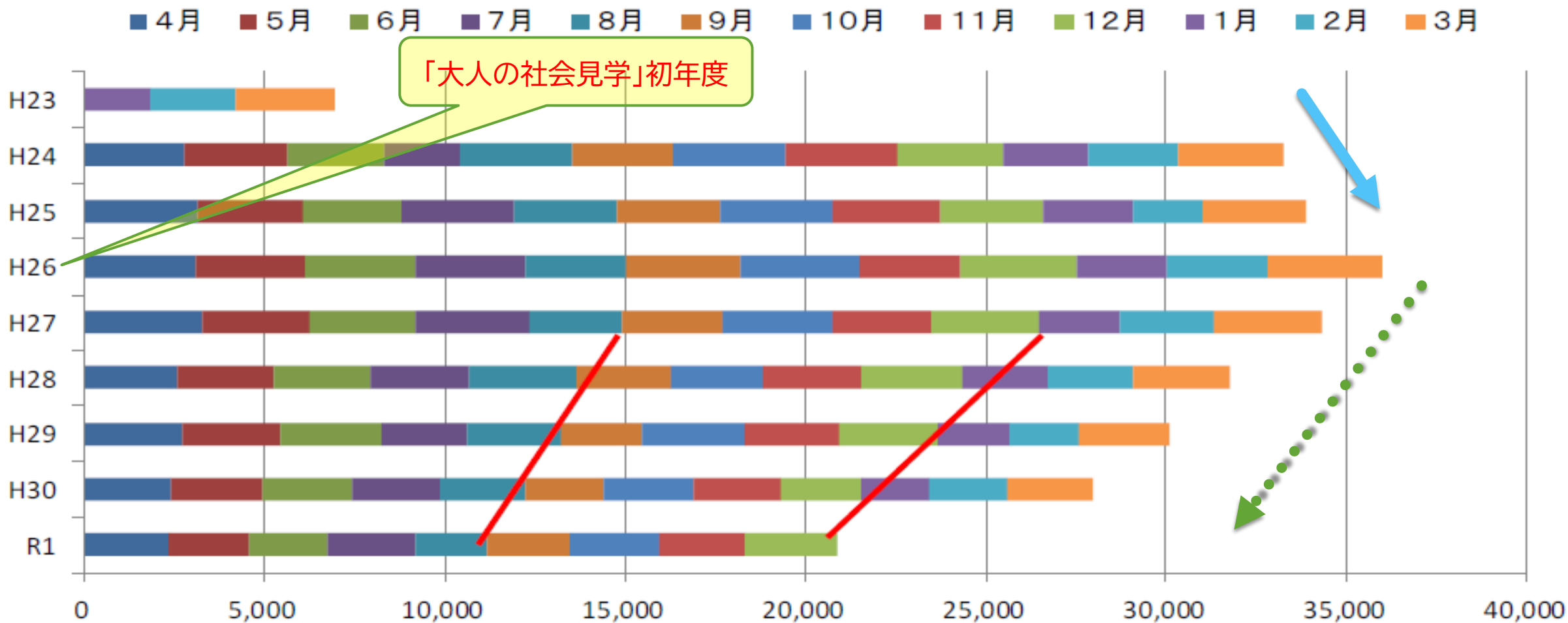
「指示待ち」にせず「考え」「動く」ように：教員は助言中心、主導権を学生に渡す
外部での成果発表義務化：「勉強」が「カタチ」になるように（取り組みへのインセンティブ）
毎年続けること：先輩から後輩へ、学生を途切れさせない。ゼミ募集で学生から伝達する。

▶ 苦勞した点

大学生側の力の入れさせ方の「加減」： やりすぎも逆も悪影響、理系でないので時間も研究室もない
スケジュールが行政と高校に左右： 教育研究という面では進め方に難儀も
学生の世代交代の影響：残念ながら世代交代により熱量や意欲付けには差異も
大学の理解：「なんか目立つことやっているよね」⇔成果が出たときは使う・・・最近是我慢の領域
資金面・マンパワー面： 移動や事業の経費を大学では担えない（種々の制約） 理解が得られない
もう1プロジェクトを並行でみるので、教員も余裕がなくなる

豊後大野市コミュニティバス利用状況

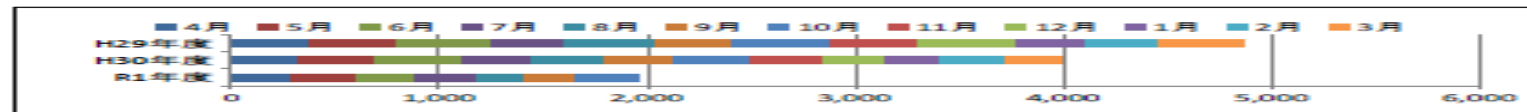
12



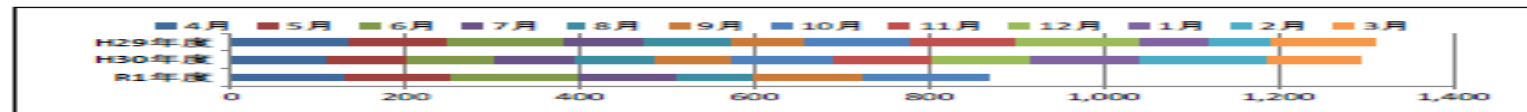
◎「大人の社会見学」開始年度までは増加、だったが

豊後大野市コミュニティバス利用状況(地区別、H28からの3か年)

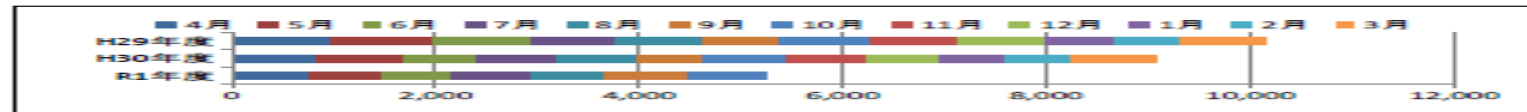
三重(1回目は優良事例で招待、6期)



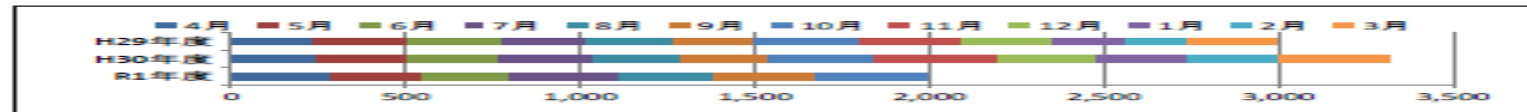
清川(3期)



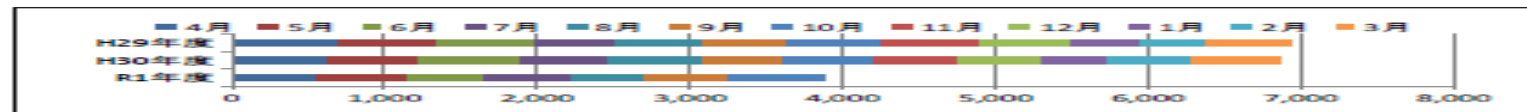
緒方(5期)



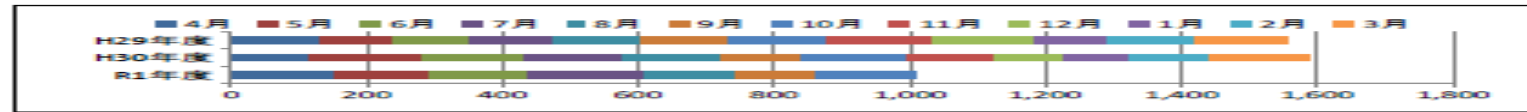
朝地(1期、2期)



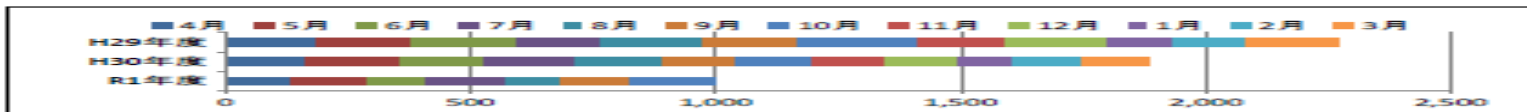
大野(4期)



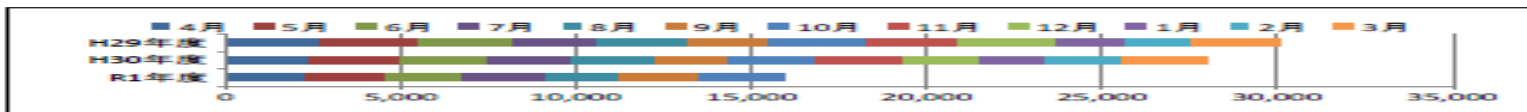
千歳(1期)



犬飼



計



◎地域により利用に格差:

ヘビーユーザー多かった三重で大きく減少傾向 … どうした？

社会実験実施地区 千歳・朝地が増加 ⇔ 緒方は減少、清川・大野は微減

総括—「高・大・官・民」連携の現実

▶ 高校を巻き込む場合：地域理解を優先 + 達成しやすい内容

「成果」と「価値」・レベルの問題 ← 高校側のニーズも配慮しつつ

地域の高校 ≠ 地域住民 を今後は理解必要

▶ 大学のかかわり方：「よそ者」「若者」効果 + 「コーディネーター」「分析者」

わかりやすい成果が出るものは高校生へ～ 「近い世代のお兄さん・お姉さん」としてフォロー

成果分析、インタビュー、コーディネート等「深い」ものは大学生主導で

▶ 行政のかかわり方：「属人性」脱却 + 「地域に出る」

初期の「露払い」効果：行政が乗り込まないと無理

▶ (黒子)コンサルのかかわり方：時に教員、時に現場運営

総括—「社会実験」が残したものと今後

- ▶ 提案側に公共交通の理解が必要:使わない、違う地域～意識醸成困難
- ▶ 「社会実験(イベント)」の限界:行政の事情、地域の事情、大人の事情
→ 「結果」が出にくい



<今後> まずは高校生・大学生の公共交通の利用促進:「自分事」化から他人へ
→ そこができてから、地域へ発展を(自分の感覚がないと、問題意識や提案が困難)

*2020・21年度は「大人の社会見学」は休止(コロナの影響もあり)

かわりに、**高校生の公共交通利用促進**にむけて調査研究実施中【2020年度成果は明日発表します】

(+ 駅前通りの利活用=まちに集える場所をつくる プロジェクト 並行)

～ 通学利用からスタート(増加)し(=)、住民利用につなげる、の流れへ

ポスター
 掲示しています
 ブースでDVD放映します

ご清聴ありがとうございました

本発表に関する問い合わせは下記まで
 お願いいたします

大分大学経済学部門 大井 尚司
 ooi-hisashi@oita-u.ac.jp

大分県豊後大野市における「大人の社会見学」事業
 (豊後大野市・大分県立三重総合高校・大分大学経済学部の3者連携協働事業)

豊後大野市まちづくり推進課 大分県立三重総合高等学校 メディア科学科
 大分大学経済学部経営システム学科交通論(大井尚司)研究室
 技術支援: 日本工業株式会社(新岡克彦)

大人の社会見学プロジェクトの経緯

1期(2013年)ICOMM発表
 高校生参加3期目
 豊後大野市まちづくり推進課
 大分県立三重総合高等学校
 大分大学経済学部
 大分市で実施(利用促進の啓発)

2期(2015年)ICOMM発表
 高校生参加3期目
 豊後大野市まちづくり推進課
 大分県立三重総合高等学校
 大分大学経済学部
 大野市で実施(利用促進の啓発)

3期(2016年)ICOMM発表
 高校生参加3期目
 豊後大野市まちづくり推進課
 大分県立三重総合高等学校
 大分大学経済学部
 大野市で実施(利用促進の啓発)

4期(2017年)ICOMM発表
 高校生参加3期目
 豊後大野市まちづくり推進課
 大分県立三重総合高等学校
 大分大学経済学部
 大野市で実施(利用促進の啓発)

5期(2018年)ICOMM発表
 高校生参加3期目
 豊後大野市まちづくり推進課
 大分県立三重総合高等学校
 大分大学経済学部
 大野市で実施(利用促進の啓発)

6期(2019年)ICOMM発表
 高校生参加3期目
 豊後大野市まちづくり推進課
 大分県立三重総合高等学校
 大分大学経済学部
 大野市で実施(利用促進の啓発)

プロジェクトの内容

【大人の社会見学】構成要素

- 公共交通の利用促進: バスを利用・料金支払まで体験
- 外出には目的が必要: 楽しいと思わせる内容を入れる
(散歩、健康教室、買い物、健康教室、レレクソンなど)
- 課題: 滞在需要や意向把握・紙ではわからない体感

【プロジェクト実施にあたって】

- 高校生・大学生の役割: 「孫」世代として(引き出し役としての役割)
 町内会の役員: 地域への発信、交通事業等の課題、乗車券など
 コミュニティの役員: コミュニティ、教育委員会(調査等)など
 教員の役割: 知識の提供、学生の誘導

効果について

利用状況の変化

年度	1期(2013)	2期(2015)	3期(2016)	4期(2017)	5期(2018)	6期(2019)
参加者数	10	15	20	25	30	35
乗車回数	10	15	20	25	30	35

学生の意見: 地域課題の理解・意識↑

地域の活用に対する意識↑ (積極的に乗った) 大人の乗車に、高齢者も乗車する機会が多くなった。乗車回数も増えた。乗車回数も増えた。乗車回数も増えた。

まとめ

地域住民に対する効果

- イベントが利用・理解度向上のきっかけに有効(乗車増加)
- 「乗車」が「乗車」につながるという意識が「乗車」につながり
- 「乗車」につながるという意識が「乗車」につながり
- 乗車回数が増えるという意識が「乗車」につながり
- 乗車回数が増えるという意識が「乗車」につながり

学生に対する効果

- イベントの企画・実施などを大学生→高校生主導に
- 地域課題への理解向上に効果あり
- 学生意識には課題あり
- 現場によることで理解深化化
- 乗車回数が増えるという意識が「乗車」につながり
- 高校生・大学生の公共交通利用体験が低い→目的意識理解や機会に課題
- 高校生・大学生の公共交通利用体験が低い→目的意識理解や機会に課題

